新生ワイズ起こし運動 2022
国際ワイズ創立100周年 西日本区発足25周年
ワイズ将来構想特別委員会

THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS
REGION 9 ワイズメンズクラブ国際協会西日本区 JAPAN WEST

新生ワイズ起こしニュース No. 6

2021年1月18日発行
西日本区ワイズ将来構想特別委員会

【原 点 回 帰】

ワイズとＹＭＣＡのパートナーシップ

～ 新しいワイズ設立で 広がる人脈と つながる地域！ ～

北京都フロンティアワイズメンズクラブ
担当主事　阿部　和博

京都府北部日本海側にある人口約 8 万人の舞鶴市に、2015 年、京都 YMCA の舞鶴ブランチが誕生しました。舞鶴市から北部の次世代人材養成拠点としての役割を期待され、誘致を受けての専門学校事業での活動でした。人口の少ない地方都市での YMCA 活動は「人的交流による地域コミュニティの持続と活性化」という社会課題への大きなチャレンジです。

YMCA だけではその維持・発展は険しく、行政の協力とその地域のリーダーを巻き込んだ運動とすることが必要不可欠でした。正にワイズメンズクラブが存在する意義がそこにあったのです。

そして舞鶴 YMCA 誕生 1 年後に地元の若手リーダーを中心に北京都フロンティアクラブが京都部支援のもとチャーターされたのです。

未開の京都府北部でのワイズ運動を意味する「フロンティア」という名称がつけられました。

ここに YMCA 運動とワイズ運動が一体的にかつ有機的に機能することが地域の活性化につながるというワイズの原点に立ち返った設立の経緯があります。

また、チャーターメンバーに京都部のクラブメンバーは存在しないという異例の設立背景もありました。クラブ運営方法は当然、京都部のクラブ運営を真似て、そこにフロンティア独自の地域性によるアイデアを加え、舞鶴 YMCA との協働を軸にして行われております。

例会の作り方、役員会の進め方等試行錯誤を繰り返しながら、YMCA 連絡主事を通して京都部の各クラブ情報が伝達され、修正を繰り返して運営を続けています。

各メンバーはいままで地元の人間関係を軸に仕事や自己研鑽を積んできたことが、これまで接点のなかった京都市内のクラブメンバーや全国のワイズメンとの交流ができることになった広がりに大きな魅力を感じています。

また、YMCA と協働して地域奉仕を行えることで、より刺激的な体験もできることへの発見と喜びもあるようです。

2020 年にはコロナ禍で自粛を強いられた地域の子どもたちに元気になってもらおうと「YMCA 杯学童野球大会」を YMCA との共催で行うことができました。

YMCA のブランドコンセプトである「みつかる。つながる。よくなっていく。」というスローガンがワイズ活動のコンセプトとシンクロしていることを実感できる「良きパートナー関係」となっていると言えるでしょう。

これからもどちらも欠けることのない存在として持続し、コミュニティのリーダー的役割を担っていけることを願い努力したいと思います。

ワイズ × ビジネス 新たな「えん」の始まり

縁、援、演、宴、円　を基本に…

ＫＹＢ実行委員長
掛谷　太郎（大阪茨木クラブ）

去る令和2年12月5日、大阪YMCAにて関西ワイズビジネス交流会（以下、KYBという）の設立総会と大商演会（自社プレゼン大会）を開催いたしました。この会は、昨年度私が中西部部長の時に構想を練り、新生ワイズ起こし運動特別資金を活用させていただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。また、西日本区役員をはじめ多くの方々にご参加いただいたことを感謝申し上げます。

さて、この会をご理解いただくために以下順を追って説明をさせていただきます。

○設立に向けた背景

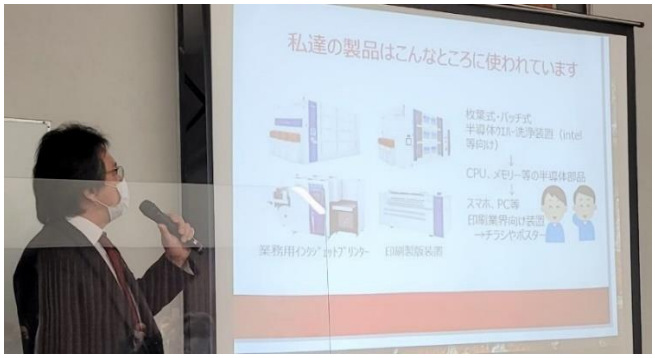
私が所属する大阪茨木クラブでは、ここ数年EMCにおいて決定的な結果が出ておらず、このままでは組織が硬直化してしまい一部の人だけへの負担が永遠に続いてしまう懸念があります。何度となく知り合い（現役で仕事を行っている方）をゲストスピーカーとして例会にお招きしましたが、入会に結びつく決定打を放つことができませんでした。

そこで、日々多忙に経営を勤しんでいる方には、仕事や自分に役立つ何かしらの可能性を感じてもらうことも必要だと感じました。

また同じ境遇の多くの人が交流できる場があれば既存のワイズメンを含めEMCにつながるものだと考えKYBの設立を目指すこととなりました。

○大商演会（自社プレゼン大会）について

大商演会では、5つの部から1名に各自の仕事内容の発表や会社のPRをしていいただきました。



普段よく会う方の仕事の業種は知っているけど、具体的な仕事内容やどういったことを重視して事業を営んでいるかなど、ワイズとはまた違った面を知ることができ興味深く聞くことができました。

このような大商演会や今後実施する事業で会員同士の交流が育まれ仕事に結びつくことも、KYBの一つの目的として捉えております。

○今後の予定について

現在新型コロナウィルスの影響で、今後の事業の実施が危ぶまれますが、研修会（大商演会を含む）、ゴルフ、ボウリング等、クラブ・部を越えた交流を通じて、ご自身の仕事にも役立ち、さらにKYBが活性化していけばEMCにも繋がるものだと思っております。

まだ、最初の第一歩を踏み出したばかりで不安な点が多々ありますが、皆様のご協力、ご支援、ご参加をいただきワイズとはまた違った切り口でKYBを盛り上げていきたいと思っておりますので、ご賛同いただけましたら幸いです。

○ホームページを立ち上げました

立ち上げたばかりでまだまだ発展途上ですが、今後内容の充実を図っていく予定です。
ご興味のある方は会員のご登録をお願いいたします。
https://kansai-ys-business.jp/

****

入会おめでとうございます！

（今回の入会者：1月10日時点）

★ **11 月**（11月：2名）

松本　啓一（京都ウエスト）
岡村　幸輝（熊本）

★ **12 月**（12月：3名）

湧田　泰一（京都ウエル）
日夏　健二（彦根シャトー）
地野　　孝（京都ZERO）

★ **1 月**（1月：1名）

田村　勇人（京都東陵）
野田　彰充（京都ウエスト）
佐藤　道彦（熊本にし）

コロナ禍 試行錯誤繰り返し コミニケーションを取る

神谷　尚孝（和歌山クラブ）

和歌山県では、新型コロナ2名発症の報道が 2 月にあり、4月、5月は和歌山市内の公的会場が出来なくなりました。 3月末に和歌山城とホテルを予定していました「阪和部メネットの集い」も中止しました。

幸い和歌山 YMCA は慎重な運営で、閉館することなく通常例会や委員会は使用させて戴いています。しかし、12月のクリスマス例会は、近隣府県の状況が厳しくなったこともあり、急遽中止しました。コロナ禍にあって、全会員とのコミニケーションをいかに保って行くかが、今後のワイズメンズクラブの運営に重要な事項です。

和歌山クラブは独自の ZOOM による委員会を5月に5名参加でテスト開催しました。

その後、全会員に LINE の使用を呼び掛け、「**YS 和歌山**」のグループを立ち上げました。会員誰でも、そこに発信すれば全会員が見られます。

西日本区からメール委員・会長宛に送られて来る文書も、全てそこへ転送し意見を聞くことが出来ます。

1月の委員会ではその LINE グループへの「ビデオ電話」へ、8名がアクセスし、ZOOM に近い利用のテストを行いました。

司会する人の事前準備と進行がうまく出来れば実用出来そうです。

私は、2008～9 年 11 代理事を務めさせて戴きましたが、その時から西日本区全クラブにメール委員を選任して戴き、西日本区とのコミュニケーションを手軽に素早く出来るように努めました。

当時は、数クラブにパソコン操作を出来る会員が一人も居ないとか、理事・主任自身にメールが不得手とかが在り、完全普及まで数年要したことが思い出されます。

和歌山クラブも高齢化のため会員減少が進んでいましたが、今期 3 名の入会式を行いました。

1 月例会のテーマは「和歌山 YMCA をもっと知ろう」で、加志総主事を迎えて行います。

新生ワイズ起こし運動に「本気」・「勇気」・「熱気」そして「根気」を！

ワイズ将来構想特別委員会　委員長　森田　恵三

1997年7月西日本区は会員数1952人をもって発足しましたが、19年後の2016年7月の期首では1494人と458人の減少（－23．5％）となり、同時に高齢化が進行しました。

この著しい会員減少と高齢化傾向をワイズの将来的危機と捉え、”これでいいのかワイズメン“との強い意識の下に、2016年7月にワイズ将来構想特別委員会が設置され、2022年の国際ワイズ100周年・西日本区25周年には発足当時までの回復を目標として（具体的目標2022名）「新生ワイズ起こし運動」を展開してきました。

委員会設置後、全クラブへのアンケートや現状調査による情報収集をもって改革の課題を探り、次に掲げる「西日本区ビジョン」を策定し，理事通信や区報に掲載、運動イメージ図のDVDを製作して、部と全クラブに配付するなど広報に努めてきたのでありますが、**会員の皆様にはご覧になっていただいたでしょうか。**

西日本区ビジョン（ワイズの未来に向かっての理想像）

《誇りと情熱をもって社会に貢献する前向きで逞しいワイズ》

愛と奉仕のワイズ精神を基盤とし、会員相互に切磋琢磨して高め合い、楽しく付加価値の高いクラブ活動を展開し、誇りと情熱をもって社会への貢献に努め、内外から認知され評価される良質な奉仕クラブを目指したい。

西日本区ビジョン実現に向かっての「新生ワイズ起こし運動」は、あくまでも各部に設置された実働チームと当委員会との協働の基に、**各クラブと会員一人ひとりが本気**になって、**勇気**を出して、**熱気**をあげて、**根気**よく切れ目のない活動をすることが必要であることを強く広報しています。

しかし、これまでの4年間の活動状況においては、各部の環境の違いもあって活動の差異が著しく、委員会発足後も会員の退会数が入会数を上回るために、**いまだ会員減少に歯止めがかからず、危機認識の薄弱さ**も感じる誠に残念な状況にあります。

今後の委員会活動の方針としては、With Corona の社会変化にあって外向的活動が制約されることを鑑みて、入会勧誘と退会防止の両面に強く関係する**クラブや会員の質的向上策を図る内向的活動**にもっと注力すること、併せて、危機的状況に在ると言われるローカル**YMCAとワイズとの協働の絆を強化**するために、部とYMCAとのパートナーシップ委員会（仮称）を設け、winwin の関係を築く共同体構築を図ることを決定しています。

いずれにしても、**弱体環境にあるワイズとYMCAの体制回復発展の願い**を全会員が強く心にとどめ、一致協力して行くことが、私たちワイズメンに課せられた使命であります。

会員皆さんの一段のご理解とご協力、併せて当委員会の活動についても積極的なご意見をお寄せいただくよう期待しております。